

会社概要 (2022年6月30日現在)

社名 レーザーテック株式会社
所在地 〒222-8552
神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目10番地1
設立 1962年8月
資本金 9億3,100万円
主な事業内容 下記製品の開発・製造・販売・サービス
1. 半導体関連装置 2. エネルギー・環境関連製品
3. レーザー顕微鏡関連製品 4. FPD関連装置
従業員数 連結 662名 単体 374名
お問い合わせ先 045-478-7127 (経営企画部)

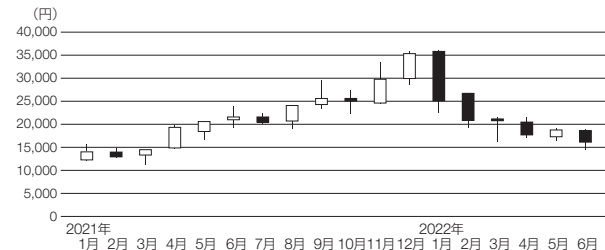
株式情報 (2022年6月30日現在)

株式概要

上場市場	東京証券取引所プライム市場	
発行済株式総数	94,286,400株	
株主数	43,521名	
大株主一覧	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,395	12.63
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	4,231	4.69
内山 靖子	4,006	4.44
内山 洋	3,483	3.86
CITIBANK, N.A.-NY, AS DEPOSITARY BANK FOR DEPOSITARY SHARE HOLDERS	3,437	3.81
BBH FOR UMB BANK, NA - WCM FOCUSED INTERNATIONAL GROWTH FUND	3,057	3.38
株式会社三菱UFJ銀行	3,008	3.33
内山 秀	2,788	3.09
前田 せつ子	2,587	2.86
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	2,147	2.38

(注) 1. 当社は、自己株式を4,105千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。また持株比率は、自己株式を控除して計算しております。
2. 持株・持株比率は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

株価の推移



取締役および監査役 (2022年9月28日現在)

取締役 会長執行役員 楠瀬 治彦	代表取締役 社長執行役員 岡林 理	取締役 専務執行役員 森泉 幸一
取締役(社外) 三原 康司 上出 邦郎 岩田 宣子	常勤監査役 浅見 公一	監査役(社外) 石黒 美幸 出雲 栄一

株主メモ

事業年度 7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会 毎年9月
基準日 毎年6月30日(なお、その他必要あるときは、あらかじめ公告した日)
単元株式数 100株
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (通話料無料)
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

公告掲載URL <https://www.lasertec.co.jp>
ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。



- (ご注意)
- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関(証券会社など)にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取り扱いいたします。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行の本店でお支払いいたします。

当社Webサイトのご案内
<https://www.lasertec.co.jp/ir/>



日興アイ・アール株式会社の「2021年度 全上場企業ホームページ充実度ランキング」にて総合ランキング最優秀サイトに選ばれました。



株主通信

Lasertec News 27

第60期

2021年7月1日▶
2022年6月30日

Create
Unique Solutions.
Create
New Value.



証券コード6920

Lasertec

新横浜本社 / 研究開発センター

2022年6月期(当期)も売上高、利益、受注高、受注残高、すべての面において6期連続で過去最高を更新できました。引き続き成長を支える経営基盤の強化に努め、「世界中のお客さまのご期待に応える以上の会社」に向けて、さらなる成長を目指してまいります。



代表取締役
社長執行役員
岡林 理

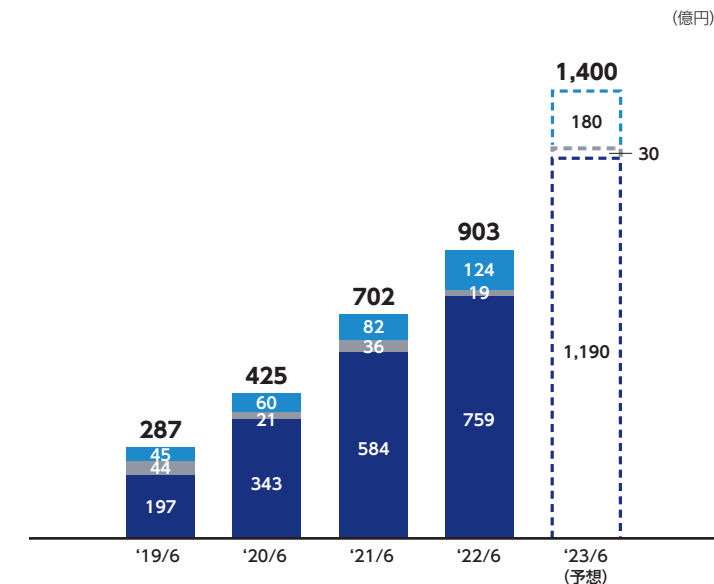
当期の業績と事業環境

当期における経済情勢は、新型コロナウイルス感染症、ロシアのウクライナ侵攻の影響による資源・食料価格の高騰やサプライチェーンの混乱、またそれらに端を発した世界的なインフレ、積極的な金融政策、不安定な為替相場とさまざまな面で不透明な状況でした。一方、当社の主な事業領域である半導体業界では、スマートフォンをはじめとする通信機器のほか、オンライン会議などのクラウドサービスの広がりによってデータセンター向けの

半導体需要が堅調に拡大しました。特に最先端の半導体に対する需要が強く、半導体デバイスメーカー各社がEUV（極端紫外線）リソグラフィを用いた半導体製造能力の増強と、さらに微細化を進めた次世代半導体の開発を積極的に行っており、好調な事業環境が続きました。

当期の業績としましては、売上高が903億78百万円（前連結会計年度比28.7%増）、営業利益が324億92百万円（同24.6%増）、経常利益が335億82百万円（同27.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益が248億50百万円（同29.1%増）となりました。受注高は3,237億62百万円（同186.8%増）、期末受注残高は3,692億3百万円（同171.8%増）となり、すべての面で過去最高額を更新できました。

製品別売上高 ■ 半導体関連装置 ■ その他 ■ サービス

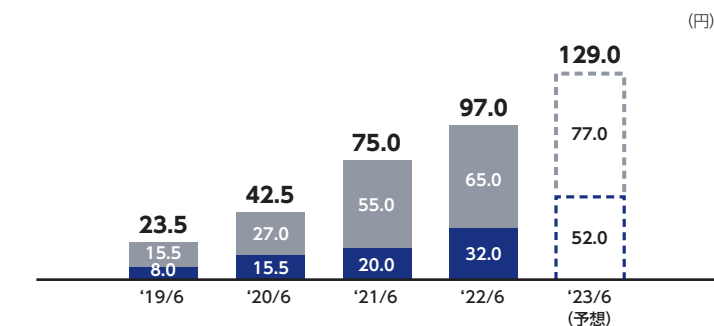


当期の配当

当社は、連結での配当性向35%を目安として、業績に応じた弾力的な配当政策を行うことを利益配分に関する基本方針としております。内部留保は、新技術・新製品の研究開発投資や優秀な人材の獲得などへ有効に活用し、企業体質の一層の強化と長期安定的な経営基盤の確立に役立てていく方針です。

この方針に基づき、当期期末配当金は1株当たり65円、年間配当金は前期比22円増配の97円（連結配当性向35.2%）とさせていただきます。

1株当たり配当金 ■ 中間 ■ 期末



(注) 2020年1月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施いたしました。経年比較のため、上記の金額は2019年6月期の期首にこの株式分割が行われた仮定で算出してあります。

注目製品

当期には大型の新製品、マスク検査装置MATRICS [X9ULTRA] を発表しました。本製品は、世界中のウェハファブやマスクショップで広く用いられ、高い評価をいただいているDUV光を用いたマスク検査装置MATRICSシリーズの最新機種です。高NA対物レンズと新たに自社開発したハイパワー193nmレーザー光源の搭載で、EUVマスク上の微小異物、欠陥検出能力を格段に高めています。従来の[X810EX]がデザインノード20nm~7nm向け、[X8ULTRA]が7nm/5nm/3nm向け、そして[X9ULTRA]が3nm以降に対応しており、将来のニーズまでくまなくカバーするラインアップが整いました。近い将来、半導体の微細化がさらに進むと、先立って発表したEUV光を用いたアクティニックEUVパターンマスク欠陥検査装置[ACTIS A150]の需要が増えると想定しておりますが、MATRICSシリーズが活躍する場面も同時に拡大する見込みです。今後の半導体業界のさらなる発展を支えるとともに、当社業績への大きな貢献を期待しております。

一方、ウェハ検査装置では、SiCウェハ欠陥検査/レ

ビュー装置[SICA88]が大変好調で、受注ベースで前期の5倍程度と大きく伸長しました。パワー半導体は電力効率を左右する、EV(電気自動車)をはじめとした脱炭素化に向け欠かせないキーデバイスです。特に省エネ性能の高いSiC(炭化ケイ素)を素材とする次世代型パワー半導体への投資が活発になり、世界中のSiCウェハメーカーとSiCデバイスメーカーの双方から検査装置の受注が急拡大しました。当社業績への寄与はもちろんです。エネルギー効率の改善と脱炭素社会の実現に向けた重要な分野ですので、引き続きビジネス拡大に注力してまいります。

さらに、製品ではありませんが、サービスビジネスが大きく伸長しました。サービスは過去に納入した当社製品の保守メンテナンスや消耗品交換に関わるビジネスですが、お客さまにご活用いただいている稼働装置の台数が増えたことで、昨今大きなセグメントになってきました。今後ともお客さまに安心して当社製品をお使いいただけるよう、グローバルサービス体制の強化に取り組んでまいります。

今後の取り組み

当期は中期経営計画フェーズ3+(プラス)*の初年度でした。1年を振り返って、当社検査装置の需要が想定し得なかったペースで急拡大している現状は大きな驚きです。当期期初に公表した通期業績予想では、

受注見込みは1,600億円とお伝えしました。その前の期(2021年6月期)の受注高は1,129億円、さらにその前の期(2020年6月期)は801億円でしたので、当期の1,600億円予想は当社にとって相当背伸びを

した努力目標も含んだ数値でした。お客さまからの引き合い状況を加味して開示したのですが、当初は達成可能かの確信が持てず、いずれにせよ「経営基盤の強化」を急がなければと、気が引き締まったことを思い出します。結果として当期の受注実績は3,237億円、期初予想の2倍以上、前期実績の約3倍、前々期実績の4倍以上という水準になりました。過去においては、半導体業界はシリコンサイクルと呼ばれる需要変動に悩まされてきましたが、近年では半導体需要の中長期的な成長ポテンシャルが強まり、谷は浅く、谷から山までの上昇期間は長く、そして山は徐々に高く、その変動が穏やかなスーパーサイクルに移行したのかもしれない。その時流に乗ってビジネスを拡大できたことはうれしく思っております。

一方、前回の中期経営計画フェーズ3の最終年度には、当社のビジョンである「世界中のお客さまから真っ先に声をかけていただける会社」に近づけたと

会社の成長を喜んでおりましたが、今からは「世界中のお客さまのご期待に応える以上の会社」を目指さなければなりません。そのために最重要課題としていた「経営基盤の強化」をあらゆる面から加速させ、成長軌道に乗った事業を無事にはばたかせることに注力してまいります。

※ 2021年7月から2024年6月までの3カ年中長期経営計画



株主さまへのメッセージ

おかげさまで、6期連続で過去最高の業績を更新することができました。前段で触れた通り、レーザーテックはこれまでの施策が実を結びとともに、非常に良好な事業環境に恵まれております。ただ、1年前の2021年6月期 株主通信でお伝えした、直面する課題「事業成長のジレンマ」は、さらに大きな課題となって目の前に立ちはだかっています。本年2月に公表した固定資産の取得によって、事業成長を支えるハードウェア面で拡充の目途は立ちました。あと

はソフトウェア面、すなわち国内外での優れた人材の獲得と育成、ならびに拡大しつつある組織においても当社の大きな強みであるフラットでスピーディーな企業文化の浸透と強化に、引き続き鋭意取り組んでまいります。

株主の皆さまにおかれましては、変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

前連結会計年度比
28.7% ▲ 売上高 **903億78**百万円

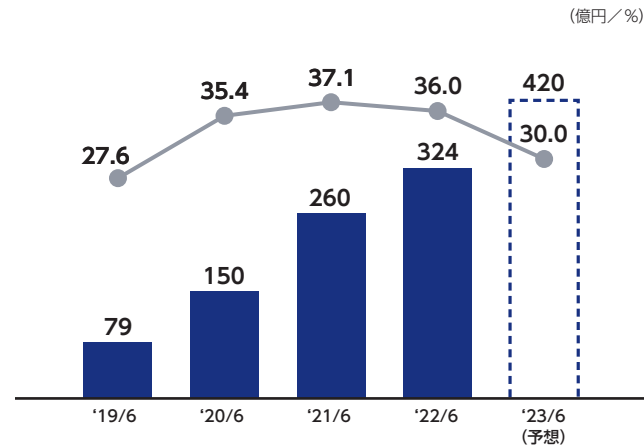
前連結会計年度比
186.8% ▲ 受注高 **3,237億62**百万円

前連結会計年度比
24.6% ▲ 営業利益 **324億92**百万円

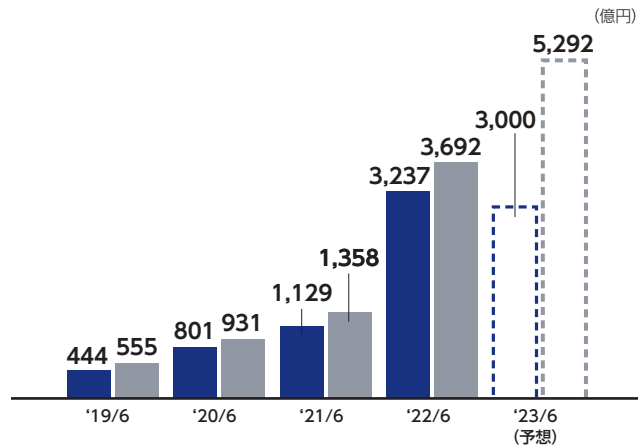
前連結会計年度比
29.1% ▲ 当期純利益 **248億50**百万円

自己資本 **727億26**百万円
資産合計 **1,786億29**百万円

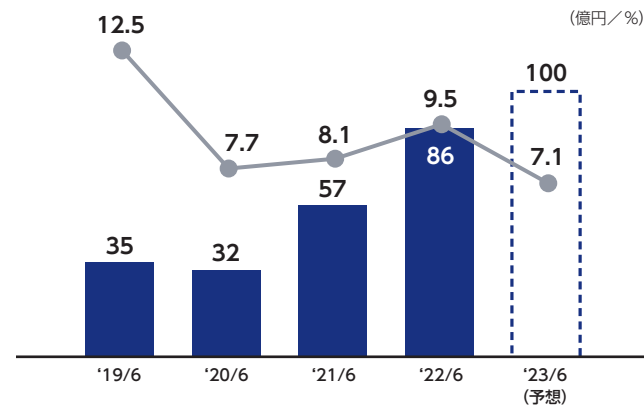
■ 営業利益 ● 営業利益率



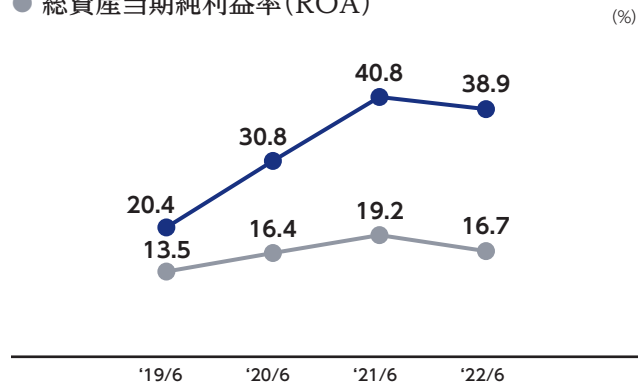
■ 受注高 ■ 受注残高



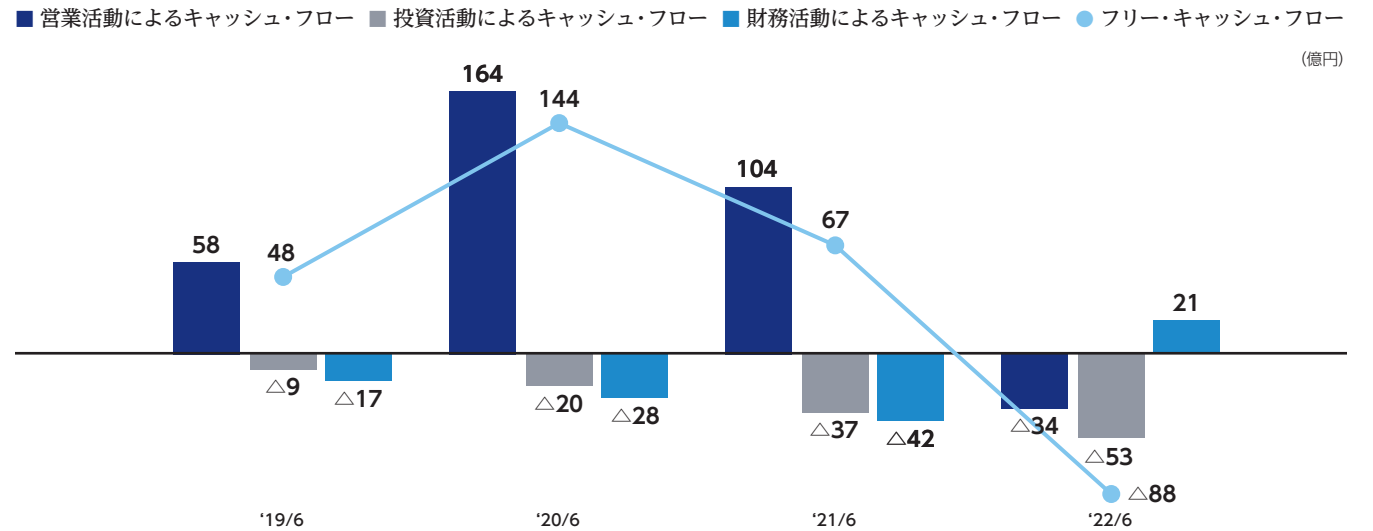
■ 研究開発費 ● 売上高研究開発費比率



● 自己資本当期純利益率(ROE)
● 総資産当期純利益率(ROA)



キャッシュ・フロー



決算のポイント

純資産合計

株主資本にその他の包括利益累計額および新株予約権を加えた純資産合計は727億47百万円となりました。自己資本比率は40.7%で、引き続き財務の健全性を維持しています。

売上高/利益

業績は予想を上回り、売上高、利益で過去最高額を6年連続で更新しました。EUV向け製品が牽引し半導体関連装置が大幅増収となったことから、売上高は900億円を超えました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

たな卸資産の増加、法人税等の支払いなどの支出要因が、税金等調整前当期純利益、前受金の増加などの収入要因を上回りました。

マスク検査装置

高性能な半導体デバイスは、スマートフォンや電気自動車のほか、オンラインショッピング・AI(人工知能)などのインフラとなるデータセンターに不可欠です。最先端の半導体デバイスの量産では、より細かく複雑な回路を実現するために、微細な加工を可能にする最新技術「EUV*露光(リソグラフィ)工程」が用いられています。

マスク検査装置とは

半導体製造では、露光装置を使い回路パターンをウェハ(集積回路を作る基板)上に転写します。露光装置で使われるフォトマスク(マスク)は、フィルムカメラのネガフィルム(原版)にあたるものです。フォトマスク上に欠陥やゴミが残っていると、光を照射した際に、ウェハ上にそのまま転写されて不良品となってしまいます。当社のマスク検査装置はフォトマスク上の欠陥や異物を光で検査・検出することで、半導体デバイスの良品率向上とコスト低減に貢献しています。

最先端半導体製造で使用されるEUVのマスク検査装置「ACTIS」

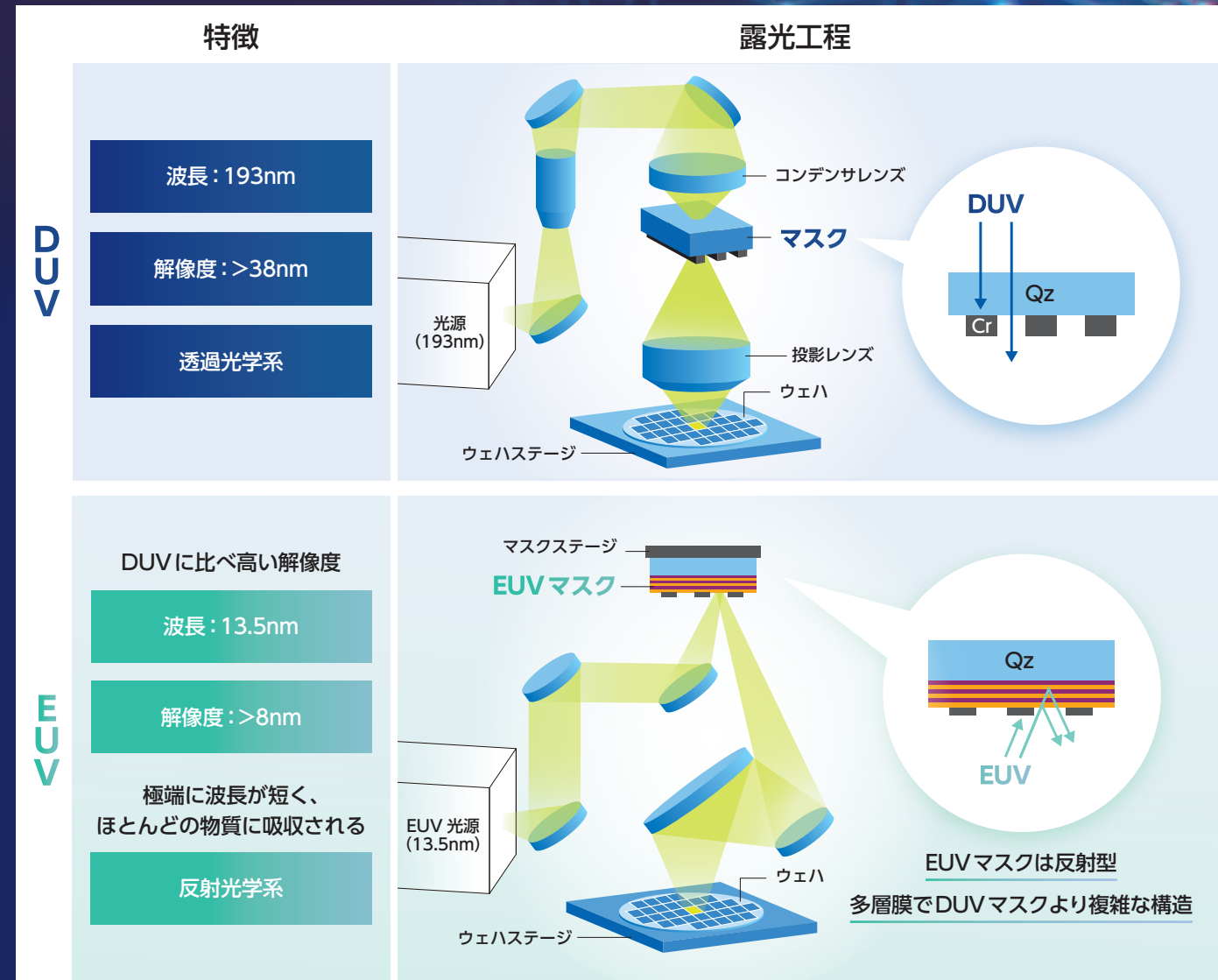
「ACTIS」はEUV露光装置と同じEUV光を用いたマスク検査装置です。極端に波長が短いEUV光はほとんどの物質に吸収されてしまうため、従来のマスク検査装置とは大きく異なる構造を採用して、光を鏡で反射させながら検査を行います。DUV光より波長の短いEUV光の採用でより高感度な検査を実現し、またEUV露光装置と同じ波長を用いることで他の光では捉えられないEUVマスク特有の転写性欠陥の検出を可能にしました。

「ACTIS」は当社が世界で初めて開発した装置です。今後お客さまからフィードバックを頂きながら、パイオニア企業としてますます付加価値の高い検査装置の提供に努めてまいります。

* EUV: Extreme Ultra Violet(極端紫外線)、半導体製造の露光に使われる光
(注)アクティビック検査=露光波長と同波長を用いる検査



従来の「DUV露光工程」と最先端の「EUV露光工程」



2022 2/25 「新研究開発拠点」として固定資産の取得を発表

業容拡大を受け、「クリーンルームの増強」「部品の保管スペース拡大」「拠点分散化を抑制し業務効率の向上」を目的として新拠点の取得を発表しました。今後、研究開発、製品の最終調整、出荷の拠点として活用する予定です。

物件概要	
所在地	横浜市港北区
面積	敷地 : 約15,830㎡ ← 本社の4.8倍
	建物延床 : 約28,822㎡ ← 本社の2.6倍
取得価額	約167億円
物件引渡	2022年9月30日(予定)

2022 3/17 「High-Growth Companies Asia-Pacific 2022」アジア太平洋地域急成長企業ランキングに2年連続ランクイン

Financial Times (英国)、Statista (ドイツ) がアジア太平洋13カ国・地域100万社以上の企業を対象にした共同調査を行い、2017年～2020年の売上高(当社の売上高は2018～2021年度)年平均成長率上位500社が選出されました。当社は250位(前年279位)となり、2年連続でランクインしました。

2022 4/4 東京証券取引所の市場区分再編、当社はプライム市場に

東京証券取引所は4月4日、市場第一部と第二部、マザーズ、JASDAQの市場区分を見直し、新たにプライム、スタンダード、グロースの3市場をスタートさせました。当社は最上位のプライム市場に移行しました。

2022 4/8 Intel EPIC Supplier Program Award で「Distinguished Supplier 賞」を受賞

本賞は、Intel(米国)が掲げるロードマップを推進するうえで、期待を上回るパフォーマンスを継続的に実現したサプライヤーに授与されます。当社は前年と同等の「Distinguished Supplier 賞」を受賞して、3年連続で優秀サプライヤーとなりました。



2022 4/26 MATRICS X9ULTRA シリーズ発売

新製品
発売

テクノロジーノード3nm以降のペリクル*非装着のEUVマスクに特化したマスク検査システムを発売しました。自社開発したハイパワー193nmレーザー光源および高NA対物レンズを搭載し、従来機よりもさらに微小異物、欠陥検出性能を向上させました。

*ペリクル: フォトマスク(マスク)のパターン面に、異物が付着するのを防ぐ保護膜

